

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

定例総会

2016年7月2日（土）13：30～15：00

於： 認定NPO法人共存の森ネットワーク事務所

<議題>

- 1) 2015年度事業報告、決算報告について
- 2) 2016年度事業計画、予算について
- 3) 役員の選任について
- 4) 退職金制度の導入について

認定 NPO 法人共存の森ネットワークの活動指針

当 NPO は、「聞き書き甲子園」の活動と、この事業に参加した経験をもつ卒業生有志からはじまった「共存の森」と呼ぶ活動を母体に生まれました。

森とともに生きてきた先人たちの伝統的な暮らしの知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基本があることを見据えながら、人と自然・人ととの「共存」を基本とした社会づくりと、新たな価値観の創造に寄与することを目的としています。

そのために、当 NPO は「聞き書き甲子園」の運営をはじめ、「閉じられた生態系－地球－」の上で全人類と他の生物が共存するための「人づくり」、「森づくり」、「地域づくり」、「情報発信」等、様々な活動を展開していきます。

これらの活動を末永く続けていくことが、持続可能な社会の構築への一歩と考えます。そのためには、大人たちから若い世代へ、若い世代から大学生・高校生へと、世代をつないでいくことが重要です。

当 NPO の使命と社会的役割について、会員の皆様の積極的な議論を期待するとともに、引き続き、活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第1号議案－1 2015年度事業報告 <2015年5月1日～2016年4月30日>

概要

当団体は設立から9年目、聞き書き甲子園については第14回の開催を迎えました。卒業生の中には、当団体の活動を通してご縁のできた地域へIターンし、あるいは地域おこし協力隊となって農山漁村地域で活躍する社会人も増えてきました。また、聞き書き甲子園を終えて間もない高校生や大学生の中にも、名人との出会いをきっかけにアクションを起こしたい、地域の課題解決に取り組みたいと考える学生が現われ、それを応援する ond（オンド）という活動が生まれました。

「聞き書き甲子園」や「共存の森づくり」を通して当団体が取り組んできた、「聞く」ことを通して学び、身近な課題を発見し、行動する若者育成の取組みは、アクティブ・ラーニングのひとつとしても注目されるようになりました。

前年度に引き続き、「学校の森・子どもサミット」や「海洋教育」の実施等、小中学校を含む、より幅広い世代を対象とした環境教育の推進、次世代育成にも取組んでいます。

また、海外では、インドネシアでの「聞き書き」普及活動を再開しました。3月には、「聞き書き甲子園」に参加した日本の学生と、インドネシアの学生の交流を行い、それぞれの国的学生が、名人への「聞き書き」を通して、地域固有の自然、生活文化、伝統、生き方を見つめ直し、持続可能な社会について考える機会となりました。

さらに、こういった活動の原点となる「聞き書き」の意義を、「聞き書き甲子園」15周年を機に発信していくために、卒業生を中心とした15周年事業実行委員会を立ち上げ、準備を始めました。

皆様の活動に対するご支援、ご協力に感謝申し上げますと共に、以下、それぞれの活動の詳細についてご報告を申し上げます。

I 組織

1. 会員（2016年4月30日現在）

	一般会員	ユース会員	法人・団体会員
正会員	41人 (-2)	46人 (-2)	
賛助会員	32人 44口 (+9人、+12口)		4社 8口 (-3社、-4口)

※ユース会員・・・・・・満23歳未満で正会員となる方

※()・・・・・・昨年同時期からの増減

2. 役員（敬称略）

体制表

役職	氏名	所属
理事長	瀧澤 壽一	NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会理事長
副理事長	峯川 大	株式会社ライドオン・エクスプレス
理事	吉野 奈保子	「聞き書き甲子園」実行委員会事務局
理事	竹田 純一	里地ネットワーク事務局長
理事	あん まくどなるど	上智大学大学院地球環境学研究科教授
理事	木村 尚	NPO 法人海辺つくり研究会理事・事務局長
理事	中山 幹生	東京農業大学農山村支援センター研究員
理事	工藤 大貴	慶應義塾大学3年
理事	大黒 朱梨	同志社大学年4年
理事	田中 真奈	関西大学3年
理事	浦崎 幹八郎	岐阜工業高等専門学校環境都市工学科5年
理事	本多 美優	デジタルハリウッド大学4年
監事	能登谷 愛貴	NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンター職員
監事	森山 里菜	株式会社渋谷サービス公社職員

II 事業

1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

① 第 14 回「聞き書き甲子園」の開催

「聞き書き甲子園」は、毎年、全国の高校生 100 人が、森・川・海に関わるさまざまな分野で活躍する「名人」を訪ね、自然とともに生きる知恵や技、心を、「聞き書き」を通して学び、記録し、発信する活動です。「聞く」ことを通して世代間のコミュニケーションを図り、次代を担う若者を育成するとともに、持続可能な社会づくりに貢献することを目指しています。

「聞き書き甲子園」は「もりのくに・にっぽん運動※」の一環として平成 14 年度（2002 年度）より始まり、本年度で第 14 回目の開催となりました。農林水産省、文部科学省、環境省、公益社団法人国土緑化推進機構、公益社団法人全国漁港漁場協会、全国内水面漁業協同組合連合会と当 NPO の 7 者で構成する実行委員会が主催し、株式会社ファミリーマートをはじめとする下記の協賛企業からの支援と公益財団法人日本財団の助成金により実施しています。

本年度は、全国 99 校から 147 人の応募があり、100 人の高校生が参加しました。

運営には、卒業生を中心とした学生スタッフが主体的に関わり、広報活動や研修時のワークショップ、展示等の企画を行っています。本年度 3 月のフォーラムでは、卒業生による自主企画として、「座・ローカル！～藤本智士と地域の未来づくりに挑む 10 代が語る、ローカルの温もり～」と題し、地域でアクションを起こしている卒業生の活動「ond」（後述）の発表と藤本智士氏（有限会社りす代表）を招いたトークショーを行いました。また、2 日目に行った「私たちがつくる地域の未来」のワークショップでは、「東北食べる通信※」の高橋博之さんに講評をいただきました。

また、本年度のフォーラムでは、インドネシアでの聞き書き（後述）の発表やインドネシアの高校生との交流もあわせて実施しました。

[実施スケジュール]

5 月 13 日～7 月 1 日	参加高校生募集
7 月 21 日	参加高校生決定
8 月 11 日～14 日	聞き書き事前研修実施（於：都民ホール、高尾の森わくわくビレッジ）
9 月～12 月	参加高校生による名人への取材
1 月 6 日	聞き書き作品の提出締切り・優秀作品（7 作品）の選考
3 月 27 日～28 日	フォーラム（成果発表会）開催（於：東京大学弥生講堂一条ホール）
4 月 25 日	「聞き書き作品集」完成、参加者・関係者に送付
※7 月 9 日と 11 月 4 日に聞き書き甲子園に関わる企業、団体、行政機関、学生スタッフ等が集まり、事業の実施状況と今後の展開について意見を交わす FOXFIRE 俱楽部を実施し、15 周年事業の実施について検討を行いました。	

※「聞き書き甲子園」は、以下の企業・団体にご支援、ご協賛をいただいています。

募金協力・企業寄付：株式会社ファミリーマート

協賛・協力：東京ガス株式会社、トヨタ自動車株式会社、富士フィルムホールディングス株式会社、アサヒビール株式会社、京王電鉄株式会社、佐川急便株式会社、株式会社ティムコ、株式会社トンボ、株式会社長塚電話工業所、株式会社ベネッセコーポレーション、BESS フォレストクラブ、一般社団法人環境文化創造研究所、公益財団法人一つ橋文芸教育振興会、公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団

助成：公益財団法人日本財団、一般社団法人昭和会館

※「もりのくに・にっぽん運動」とは平成14年度（2002年度）に「森の名手・名人」の選定事業を軸に、公益社団法人国土緑化推進機構の呼びかけにより始まりました。「先人たちから受け継いだ知恵や技を改めて見出し、次世代に継承することを通じて、人と自然が共存する新たな価値観とライフスタイルを提唱し、持続可能な社会づくりに貢献すること」を目的とし、「森・海・川の名人選定事業」「聞き書き甲子園の実施」「森と人、人と人、世代と世代をつなぐ地域づくり活動の推進」「国内外への普及・啓発活動の展開」の4つの事業を実施。市民・行政・企業・NPOなど多様な主体が集まるプラットフォームとして、同機構と当NPOが事務局を担っています。

※「東北食べる通信」とは、生産者と生活者をつないでより良い未来を築くために月1回、おいしい食べ物を作る東北各地のスペシャリストの特集記事とともに、その人が生産した一品をセットで届ける冊子。

・東京湾中央防波堤内側埋立地「海の森」での植樹活動

ゴミや建設廃土によって埋め立てられた東京湾中央防波堤内側埋立地（面積約88ヘクタール）を、市民、行政、NPO、企業が協働し、森へと再生する「海の森」プロジェクトは、平成20年（2008年）から始まりました。「聞き書き甲子園」も、当初からこのプロジェクトに参画し、参加高校生による植樹を継続して行ってきました。

本年度は、「東京都海の森俱楽部」会員事業として東京都港湾局との共催により、「聞き書き甲子園フォーラム」2日目（3月28日）に、スダジイやタブノキなど約200本の苗木を植えました。

平成32年（2020年）に予定されている東京オリンピック開催を控え、「海の森」での植樹は本年度が最後となりました。

※「東京都海の森俱楽部」は、「海の森」について広く国内外に発信するとともに、多様で魅力的な行催事や樹林地管理等の機会を広く都民に提供し、都民サービスの向上を図るため、東京都港湾局が企業、団体等に広く参画を呼びかけ設置した任意組織で、当NPOも会員として加入しています。

・「聞き書き作品」電子図書館化

毎年、高校生がまとめた「聞き書き作品」は、聞き書き作品集として冊子にまとめるとともに、一般社団法人農山漁村文化協会（ルーラル電子図書館を運営）のご協力により、「聞き書き電子図書館」としてネット上で公開しています。本年度は、第13回の聞き書き作品のデータを整理し、新たに収録しました。現在、計1285作品を公開しています。

・名人の選定事業

「森の名手・名人」「海・川の名人」の候補者の推薦が減少傾向にあることから、本年度より当NPOに専従スタッフを配置し、名人情報の収集を行っています。その結果、候補者の推薦が増え、本年度は、森の分野で71人、海・川の分野で33人、計104人が名人に選定、表彰されました。

・卒業生アンケートの実施

15周年事業の実施に向けて、卒業生の進路や近況と、聞き書き甲子園が参加者に与えた影響について調べるため、第1回～第13回の聞き書き甲子園参加者1300人に対してアンケートを実施しました。住所不明者等を除いて1173人にアンケートを送付、また、ネット上でも告知の努力を行いましたが、事務局が把握している住所の多くは実家の宛先であり、進学や就職等により転出した卒業生には直接は届かず、回答数は131人にとどまりました。

回答者のうち、現在も名人との交流があると答えた人は全体の4分の1でしたが、約3割の卒業生が現在の自分の生き方や考え方について「聞き書き甲子園」が「大変影響している」と回答し、「ある程度影響している」と回答した人は、約9割をしめました。また、その9割のうち4分の1の

人が学業や仕事以外で地域活性に関わるボランティアやプロジェクトを行っていると回答しており、聞き書き甲子園での経験が参加者の、その後の生き方や活動に影響しているということがわかりました。

・15周年事業実施に向けた準備

次年度、「聞き書き甲子園」は15周年を迎えます。これを機に「聞き書き」の意義や価値を広く発信し、「聞き書き甲子園」への理解者や支援者を増やしていきたいと、卒業生を中心に「聞き書き甲子園15周年事業実行委員会」が発足。15周年事業についての検討を行いました。その結果、「聞き書きオーブンゼミ」「名人再訪企画」「聞き書きweb」「15周年記念イベント」の4つの企画を行うことが決定し、本年度はその実施準備を行いました。

② 海洋教育プログラムの実施

小中学校における海洋教育の普及のために、公益財団法人日本財団の助成を得て、下記の事業を行いました。

・日生中学校での海洋教育プログラムの実施

「聞き書き」の手法を用いた海洋教育のモデルを構築するために、昨年度に引き続き、岡山県備前市日生中学校で、総合的な学習の支援を行いました。

本年度は、1年生が地元漁師等へ「聞き書き」を行い、2年生は1年次からの学習をまとめた「アマモガイドブック」の作成を行いました。これらの授業に聞き書き甲子園の卒業生や県内の大学生がサポートに入り、グループごとに「聞き書き」の手法の指導やガイドブックの作成指導を行いました。

・書籍『森の学校・海の学校－アクティブ・ラーニングへの第一歩』の出版とセミナー開催

全国各地の小中学校の海洋教育と森林環境教育の事例紹介を中心に、「総合的な学習の時間」におけるアクティブ・ラーニングの考え方についてまとめた書籍を『森の学校・海の学校－アクティブ・ラーニングへの第一歩』と題し、三晃書房より出版しました。

3月6日にはアルカディア市ヶ谷の会議室にて出版記念セミナーを開催。文科省視学官の田村学氏と当NPO理事長の瀧澤寿一の対談や、生活科や「総合的な学習の時間」に意欲的に取り組んでいる小学校の先生方等に事例を発表いただきました。セミナーには、小学校の教員を中心に、88名が参加しました。

2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

① 「共存の森」の活動

「聞き書き甲子園」の卒業生を中心とした、農山漁村の人と自然の暮らしのつながりを学び、未来につなげていくための活動を、全国6地区、7地域にて実施しています。

<各地区的活動概要>

関東地区：千葉県市原市の「鶴舞創造の森」で、昨年に引き続き散策道の整備を行い、里山の植物の図鑑づくりを行いました。また、山小川地区では、年配の女性への聞き書きを行い、その内容を冊子にまとめて地域の方に発表しました。

関西地区：滋賀県大津市堂町では、龍谷大学の先生方や学生、地域の方に呼びかけて、龍谷の森の散策と自然観察を行うとともに、活動でお世話になっている南部義彦さんの「聞き書き」を実施。また、地域の小学校での、そばの栽培授業のサポートを行いました。

奈良県川上村高原地区では、地域の方の要望から、高原案内パンフレットの作成を行いました。この取組みについては、川上村にもご支援いただき、次年度は、「高原歳時記」をまとめる予定です。

北陸地区：新潟県村上市高根地区で、キヤノンマークティングジャパン株式会社（CMJ）との協働で、「未来につなぐふるさとプロジェクト」を実施。棚田の保全活動等を行いました。

また、地域の課題を発見し、次年度の活動につなげていくために空き家についての勉強会や、CMJ 社員の皆さんとのワークショップ等を行いました。

東海地区：愛知県豊田市足助の椿立自治区で、竹林整備と獣害に関する聞き取り調査を行いました。伐った竹で竹灯籠を作成し、国の重要無形民俗文化財である「綾渡の夜念佛と盆踊り」の会場に設置しました。竹林整備は3年目となり、整備を終えた跡地には、景観を良くし、土砂崩れを防ぐよう、サクラ等の広葉樹の植樹を行いました。また、獣害対策の柵としても竹を活用しました。

中国・四国地区：岡山県備前市日生にて、日生中学校の海洋教育の支援のほか、地域に学ぶ「聞き書き」を実施しました。日生町漁業協同組合が行うアマモ場の再生活動に参加するとともに、日生町の4つの一般家庭に民泊し、日生の魚食文化を中心に「聞き書き」を行いました。また、頭島の島内めぐりを地域の方の案内で行いました。

九州地区：福岡県八女市矢部村にて、NPO 法人全国愛樹祭コスモネットに協力をいただき、地域の暮らしを学ぶための「聞き書き」と、活動拠点となっている「仙のふるさと文化館」裏の森の手入れを行いました。

《活動回数と参加者》

関東地区		4回、延べ30人（1回当たり平均7.5人）
関西地区	[堂]	10回、延べ31人（1回当たり平均3.1人）
	[高原]	3回、延べ18人（1回当たり平均6人）
北陸地区		7回、延べ121人（1回当たり平均17.3人）
東海地区		8回、延べ60人（1回当たり平均7.5人）
中国・四国地区		3回、延べ43人（1回当たり平均14.3人）
九州地区		4回、延べ22人（1回当たり平均5.5人）

活動回数：フィールドでの活動のみ（会議、打ち合わせ等は除く）

参加者：活動に協力いただいている地域の方や事務局スタッフ等は除く。

本年度の活動は、下記の助成金により実施しました。

《助成金》

公益社団法人国土緑化推進機構「緑の募金」中央公募事業

公益財団法人大阪コミュニティ財団 助成金（関西地区）

公益財団法人パブリックリソース財団「未来につなぐふるさとプロジェクト基金」（北陸地区）

セブン－イレブン記念財団「活動助成」（東海地区）

NPO 法人おかやま環境ネットワーク 2015 年度助成（中国・四国地区）

公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」（九州地区）

② キヤノンマークティングジャパングループとの協働活動

共存の森「北陸地区」では、キヤノンマークティングジャパングループの社会貢献活動「未来につなぐふるさとプロジェクト」の協働パートナーとして、高根フロンティアクラブとともに、「棚田のふるさとづくり」の活動を実施しています。

今年度も、稻作を体験しながら、高根集落の暮らしや自然を体験するプログラムを実施しました。また、地域住民の参加による写真教室もあわせて開催しました。

《活動回数と参加者》

北陸地区： 4回 延べ 89人（1回あたり平均 22人）

③ ond（オンド）の実施

学生理事の発案により、「地域の ond(音頭)を取る、地域の ond(温度)を少し上げる若者の挑戦」を応援する ond プロジェクトが9月にスタートしました。今年度は「聞き書き甲子園」13期の山崎紀奈里さんによる岡山県備前市日生でアマモと牡蠣殻を肥料にする伝統農法で野菜をつくる『あま Vege』プロジェクトと、12期生の谷端美紀さんによる福井県おおい町の魅力を伝える小冊子をつくる『GUZINE（グジン） PROJECT』を支援しました。

なお、山崎さんの取り組みは、高校生が地域や身の回りにある課題を解決するために立ち上げたプロジェクトを応援し、表彰する「全国高校生 MY PROJECT AWARD 2015」（マイプロジェクトアワード実行委員会主催）で115団体の中から全国2位並びに会場賞の高校生特別賞を同時受賞しました。

また、この事業は日本財団学生ボランティアセンターの「Gakuvo Style Fund 2015」からの支援と、当団体への寄付金にて行いました。

④ 第3回環境省グッドライフアワードの受賞

グッドライフアワードは、日本各地で実践する「環境と社会によい暮らし」づくりをめざす活動や取り組みを表彰する、環境省のプロジェクトです。本年度応募した135組の取り組みの中から、「共存の森」各地区の活動が、環境大臣賞優秀賞に選ばれました。12月11日に東京ビッグサイトで行われた表彰式では、学生理事や活動に参加する学生がプレゼンテーションを行いました。

3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

① 「学校の森・子どもサミット」の開催

「学校の森・子どもサミット」は、小中学生による「学校林」等、身近な緑を活用した体験活動や教育活動の発表、先生方との意見交換等を通じて、森林環境教育の輪を全国に広げていくことを目的に開催しています。林野庁とその関連団体等によって構成する実行委員会が主催し、当NPOは実行委員会事務局を担っています。本年度、第2回の開催は、8月3日～5日に岡山県岡山市と西粟倉村で開催しました。初日は、岡山市内の会場で10校48名の児童が活動発表を行い、あわせて有識者等を交えたパネルディスカッションを行いました。来場者数は約220名でした。2日目・3日目は西粟倉村へ移動し、西粟倉小学校の村有林を生かした「ふるさと元気学習」の取り組みを視察し、体験しました。

※「第2回 学校の森・子どもサミット」は、以下の企業・団体にご支援、ご協賛をいただいています。

特別協賛：積水化学工業株式会社、一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協賛：前田建設工業株式会社、KDDI 株式会社、三井ガーデンホテルズ、三菱 UFJ ニコス株式会社、

日本郵便株式会社、清水建設株式会社、株式会社トンボ、トヨタ自動車株式会社、

コカ・コーラ株式会社、日本上下水道株式会社、一般財団法人日本森林林業振興会大阪支部、

岡山森林林業連合会、一般社団法人大阪林業土木協会、全国国有林造林生産業連絡協議会、

一般社団法人林道安全協会近畿中国支所、岡山県山林種苗協同組合

助成：積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」

② 「第3回海辺の自然再生・高校生サミット」の開催

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、全国でアマモ場の再生活動等に取り組む高校生の発表と交流を通して、次世代の活動の輪を広げていくことを目的に、毎年「全国アマモサミット」の開催とあわせて実施しています。本年度は、昨年度に引き続き、公益財団法人セブン・イレブン記念財団より助成いただき、当NPOと、NPO法人海辺つくり研究会が主催し、開催しました。

10月4日、全国から10校26人の高校生が参加し、熊本県八代市やつしろハーモニーホールで発表を行いました。会場には海辺の自然再生に携わる団体、行政、漁協関係者や九州県内で同様の取組みを行う高校生らが集まり、参加高校生の発表後には質疑応答を通して熱心な意見交換が行われました。翌5日には、地元から参加した熊本県立芦北高校のアマモ場再生の現場の視察や水俣病資料館の見学等を行いました。

③ インドネシアの地方言語と伝統的知識の継承のための「聞き書き」の普及

ジャワ島ボゴールとスラウェシ島パルの2地区で、インドネシアの地方言語と伝統的知識の継承を目的とした高校生による「聞き書き」を一般社団法人あいあいネットの島上宗子氏の協力により実施しました。

ボゴールでは、公益社団法人日本環境教育フォーラムの協力により、ボゴール農科大学付属コルニタ高校の2年生20人がグヌン・ハリムン・サラック国立公園内のマラサリ村で、ヤシ砂糖作りの名人などを取材しました。パルでは、NGOバンタヤの協力により、パル市及び近隣の8校の代表高校生が聞き書き研修に参加しました。

それぞれの地区的聞き書きは11月にまとまり、その中から5作品が優秀作品として選ばされました。優秀作品に選ばれた5人は3月に東京で開催した「聞き書き甲子園フォーラム」に参加し、インドネシアでの聞き書きの経験を発表すると共に、共存の森「東海地区」のフィールドである愛知県豊田市足助の椿立自治区を訪問する等、日本の高校生や農山村地域の人々との交流を行いました。

なお、同事業は、トヨタ環境活動助成プログラムの助成により実施しています。

4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

① 「世界農業遺産」地域の聞き書き

国際連合食糧農業機関（FAO）は、グローバル化、環境悪化、人口増加の影響により衰退の途にある伝統的な農業や文化、土地景観の保全と持続的な利用が図られている地域を「世界農業遺産」に認定しています。世界的に重要な農業地域を次世代に引き継ぐため、2002年に開始したプロジェクトです。日本国内で同遺産に選定された石川県能登半島と大分県国東半島宇佐地域では、地元高校生が地域の持続可能な知恵を未来に引き継いでいく「聞き書き」を実施。その運営を当NPOが受託しています。

・能登の里山里海人の知恵の伝承事業

前年度に引き続き、石川県世界農業遺産活用実行委員会より委託を受け、「能登の里山里海人の知恵の伝承事業」を実施しました。10校21名の高校生が参加し、10人の「能登の里山里海人」の聞き書きを行い、それらを作品集にまとめました。

・大分県国東半島宇佐地域での高校生による聞き書き

前年度に引き続き、大分県から委託を受けて「国東半島・宇佐地域での高校生による聞き書き事業」を実施しました。8校18名の高校生が参加し、8人の名人への聞き書きを行い、それらを

作品にまとめる指導を行いました。

② 真庭なりわい塾実施に向けた準備

当 NPO の理事長である澁澤寿一は、平成 21 年（2009 年）より、愛知県豊田市、トヨタ自動車株式会社、NPO 法人地域の未来・志援センターの 3 者協働で実施する「豊森なりわい塾」の塾長を務めています。同塾は、農山村をフィールドに、実際に「あるく・みる・きく」ことを通して、地域を学び、これから生き方、働き方、社会のカタチを考える人材育成塾です。

同塾のノウハウを活用し、岡山県真庭市中和地区で、岡山県真庭市、中和地区住民、当 NPO の 3 者協働で、「真庭なりわい塾」を、2016 年 5 月より開講することになりました。

開塾に先立ち、岡山・大阪・京都にてイベント、真庭市中和地区で 2 回の現地見学・説明会を開催し、述べ 400 人近い方々にご参加いただきました。

5. その他

① 運営委員会の開催

学生理事や「共存の森」各地区のリーダー、「聞き書き甲子園」の学生スタッフを中心に、団体の活動方針等について話し合う「運営委員会」を 8 月 9 日、3 月 25 日に開催しました。8 月の開催では、「NPO の未来を考える 1 日」と題し、学生によるワークショップやお互いの活動についての評価などを行い、今後の活動の方向性について話し合いました。3 月の開催では、「共存の森」各地区の活動や 15 周年企画についての情報共有やアイデア出し等を行いました。

② ホームルームの開催

ホームルームは、学生理事と事務局が、当 NPO の日々の活動について定期的に情報共有を行う場です。今年度は、7 月 16 日、9 月 7 日、10 月 23 日、12 月 14 日の 4 回開催し、聞き書き甲子園の運営や 15 周年事業企画等について情報共有と意見交換を行いました。

③ 「座談会」の開催

学生理事の発案により、澁澤理事長による「座談会」を開催しました。11 月 22 日に事務所で開催し、16 名の参加者が理事長の生き方や価値観についての話を聞き、語り合いました。

④ インターン生の受入れ

公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団の「CSO ラーニング制度」により、2015 年 6 月から翌 1 月まで、お茶の水女子大学 3 年生の渕上美海さんをインターンとして受け入れました。

⑤ 広報活動

年 2 回発行している当 NPO の会報誌『ZON』、ホームページ、facebook、オフィシャルブログ、公式 twitter、メールマガジン等を通して、広報活動を行いました。また、他団体が主催するイベントへのパネル出展等も行いました。

(1) 出展・発表イベント

- 11 月 1 日：横浜市子どもエコフォーラム
（「学校の森・子どもサミット」パネル出展
於：横浜港大さん橋国際旅客ターミナル大さん橋ホール）
- 12 月 8 日～10 日：エコプロダクツ 2015

- (ブース出展 (団体紹介) 於 : 東京ビッグサイト)
- 12月13日 : 教育支援コーディネーターフォーラム
(「学校の森・子どもサミット」パネル出展 於 : 都庁第一本庁舎 大会議場)
 - 2月5日 : 「10000円のカレーライス NPOで見つけた心にのこる物語」出版記念セミナー
(「聞き書き甲子園」についての発表 於 : 日本財団ビル2階会議室)
 - 2月11日 環境教育実践フォーラム
(「学校の森・子どもサミット」パネル出展 於 : 東京学芸大学環境教育研究センター)
 - 2月18日 ボードマッチTOKYO2016
(ブース出展 (団体紹介) 於 : 日経ホール ホワイエ)
- 学生団体・NPO合同新歓2016
(ブース出展 (団体紹介) 於 : 東京流通センター第2展示場 Eホール)
- (2) 新聞・雑誌等の掲載
「聞き書き甲子園」関連 : 27件 「学校の森・子どもサミット」関連 : 11件

⑥ 寄付金および賛助会員募集の活動

前年度から引き続き、株式会社ネットプロテクションズが運営する「フルルポイント」のポイント、株式会社セプテニ・ホールディングスが運営する寄付サイト「gooddoo(グッドゥ)」、キヤノンマークティングジャパン株式会社のクリック募金、公益財団法人パブリックリソース財団の運営する「Give One」などインターネットサイトを通じた寄付をいただきました。

第1号議案－2 2015年度決算書

1. 2015年度 活動計算書

平成27年度 活動計算書

平成27年 5月 1日から平成28年 4月30日まで

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク
(単位:円)

科 目	金 額
I 経常収益	
1 受取会費	
正会員受取会費	324,000
賛助会員受取会費	257,000
2 受取寄附金	
受取寄附金	
3 受取助成金等	
受取助成金	26,712,947
受取協賛金	32,479,583
4 事業収益	
青少年教育事業収益(注1)	423,630
普及啓発事業収益(注2)	56,741
森づくり事業収益(注3)	289,994
地域づくり事業収益(注4)	3,611,415
5 その他収益	
受取利息	7,353
雑収益	301,100
経常収益計	65,072,476
II 経常費用	
1 事業費	
(1)人件費	
理事報酬	2,880,000
給料手当	8,742,300
法定福利費	1,145,464
人件費計	12,767,764
(2)その他経費	
広告宣伝費	53,582
活動費	23,400
印刷費	5,566,050
支払手数料	285,027
制作費	3,215,935
施設借上費	1,543,676
講師料	1,807,432
リース料	920,313
原稿料	110,359
水道光熱費	17,382
車両借上費	2,158,480
事務用品費	548,492
消耗品費	310,493
地代家賃	1,800,000
保険料	122,057
租税公課	200
旅費交通費	26,549,316
通信運搬費	1,507,108
会議費	991,912
新聞図書費	5,189
委託費	2,092,485
道具資材費	193,455
雑費	80,047
その他経費計	49,902,390
事業費計	62,670,154

2 管理費			
(1)人件費			
給料手当	160,000		
人件費計	160,000		
(1)その他経費			
印刷費	338,796		
支払手数料	37,098		
制作費	133,644		
車両借上費	14,244		
事務用品費	90,239		
消耗品費	68,402		
修繕費	66,312		
租税公課	138,480		
旅費交通費	148,540		
通信運搬費	67,744		
諸会費	2,000		
会議費	41,415		
委託費	215,967		
雑費	12,960		
その他経費計	1,375,841		
管理費計	1,535,841		
経常費用計			
当期経常増減額	64,205,995		
税引前当期正味財産増減額	866,481		
当期正味財産増減額	866,481		
前期繰越正味財産額	866,481		
次期繰越正味財産額	16,588,570		
	17,455,051		

2. 2015年度 計算書類の注記

平成27年度 計算書類の注記

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(平成22年7月20日 平成23年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況

(単位:円)

科目	青少年教育事業 (注1)	森づくり事業 (注2)	普及啓発事業 (注3)	地域づくり事業 (注4)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益					0	581,000	581,000
1. 受取会費	92,000	516,713			608,713		608,713
2. 受取寄附金	41,784,141	4,272,511	13,085,878		59,142,530	50,000	59,192,530
3. 受取助成金等	423,630	289,994	56,741	3,611,415	4,381,780		4,381,780
4. 事業収益	64,800		15,000		79,800	228,653	308,453
5. その他収益							
経常収益計	42,364,571	5,079,218	13,157,619	3,611,415	64,212,823	859,653	65,072,476
II 経常費用							
(1) 人件費							
理事報酬	1,680,000		480,000	720,000	2,880,000		2,880,000
給料手当	7,542,300		480,000	720,000	8,742,300	160,000	8,902,300
法定福利費	1,145,464				1,145,464		1,145,464
人件費計	10,367,764	0	960,000	1,440,000	12,767,764	160,000	12,927,764
(2) その他経費							
広告宣伝費			12,697	40,885	53,582		53,582
活動費		23,400			23,400		23,400
印刷費	4,478,274	196,265	870,131	21,380	5,566,050	338,796	5,904,846
支払手数料	284,487		540		285,027	37,098	322,125
制作費	2,138,875	7,060	570,000	500,000	3,215,935	133,644	3,349,579
施設借上費	697,714	391,700	405,602	48,660	1,543,676		1,543,676
講師料	1,131,701		675,731		1,807,432		1,807,432
リース料	824,411		95,902		920,313		920,313
原稿料			11,137	99,222	110,359		110,359
水道光熱費		17,382			17,382		17,382
車両借上費	725,362	948,338	458,535	26,245	2,158,480	14,244	2,172,724
事務用品費	233,990	24,287	264,670	25,545	548,492	90,239	638,731
消耗品費	118,074	134,951	57,098	370	310,493	68,402	378,895
地代家賃	900,000		900,000		1,800,000		1,800,000
保険料	85,547		36,510		122,057		122,057
修繕費						66,312	66,312
租税公課		200			200	138,480	138,680
旅費交通費	17,870,978	1,921,221	5,853,541	903,576	26,549,316	148,540	26,697,856
通信運搬費	796,573	52,272	630,985	27,278	1,507,108	67,744	1,574,852
諸会費						2,000	2,000
会議費	352,328	192,800	377,978	68,806	991,912	41,415	1,033,327
新聞図書費			2,689	2,500	5,189		5,189
委託費	1,041,687	600,000	450,798		2,092,485	215,967	2,308,452
道具資材費	120,193	44,823	28,439		193,455		193,455
雑費	13,175	17,357	30,075	19,440	80,047	12,960	93,007
その他経費計	31,813,369	4,572,056	11,733,058	1,783,907	49,902,390	1,375,841	51,278,231
経常費用計	42,181,133	4,572,056	12,693,058	3,223,907	62,670,154	1,535,841	64,205,995
当期経常増減額	183,438	507,162	464,561	387,508	1,542,669	-676,188	866,481

3. 事業正式名称

(注1)人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

(注2)「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

(注3)「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

(注4)「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

3. 2015年度 財産目録

平成27年度 財産目録

平成28年 4月30日現在

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

(単位:円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	
手元現金	426,719
(株)三菱東京UFJ銀行 本店 普通預金	0
(株)三菱東京UFJ銀行 本店 普通預金	27,045,057
(株)三井住友銀行 世田谷支店 普通預金	1,891,100
(株)みずほ銀行 世田谷支店 普通預金	17,557,792
(株)ゆうちょ銀行 ○一八支店 普通預金	300,140
未収入金	
(公社)国土緑化推進機構	6,777,380
真庭市	298,240
東京セントラルユースホステル	40,700
三菱UFJファクター(株)	5,000
さくらインターネット(株)	3,585
前払費用	
樋口潤一	222,741
山荘楽時屋	56,550
PIF区部ユース・プラザ(株)	4,644
NEXCO西日本	3,870
日本郵便(株)	1,122
流動資産合計	54,634,640
2 固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	54,634,640
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金	
従業員給料・交通費	1,022,187
世田谷年金事務所	472,250
ヤマト運輸(株)	16,310
日本郵便(株)	88,768
ニッポンレンタカーサービス(株)	235,408
アスクル	6,399
オリックス(株)	55,836
(株)紙藤原	15,552
(株)トライ	1,055,160
(株)エー・アイ・コンサルティング	58,640
(株)ダイオーズサービスシーズ	7,452
(株)三井住友銀行	2,160

株三菱東京UFJ銀行	56,646		
岩井友子	599,458		
北口彩子	443,274		
ラディックス(株)	101,016		
樋口潤一	472,288		
(株)こっぽ舎	100,000		
(株)ブロンズ新社	86,400		
(一財)セブンイレブン記念財団	399,112		
原幸男	94,940		
住岡忠嘉	73,168		
(株)シミズ・ビルライフケア	12,960		
能登谷愛貴	35,170		
森山里菜	4,200		
西本美早希	15,400		
田中真奈	2,800		
船渡川葉月	4,200		
前川洋平	7,060		
前受金			
北陸活動	789,944		
BESSフォレストクラブ	1,500,000		
(株)長塚電話工業所	100,000		
(公財)トヨタ財団	1,500,000		
トヨタ自動車(株)	2,415,224		
(特非)日本エコツーリズム協会	2,000,000		
学校の森・子どもサミット活動	1,400,695		
(公財)パブリックリソース財団	1,700,000		
北星林業(株)	50,000		
宮城中央森林組合	50,000		
(一社)全国森林レクリエーション協会	50,000		
(一財)日本森林林業振興会東北支部	300,000		
全国国有林造林生産業連絡協議会	100,000		
積水化学工業(株)	1,000,000		
積水ハウス(株)	800,000		
もりのくに・にっぽん運動活動	12,791,081		
(特非)海辺つくり研究会	1,091,466		
(公社)国土緑化推進機構	3,500,000		
預り金			
源泉所得税	480,465		
住民税	16,500		
流 動 負 債 合 計		37,179,589	
負 債 合 計		37,179,589	
正 味 財 産		17,455,051	

4. 2015年度決算についての監査報告書

監 査 報 告 書

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2015年度決算について監査の結果、事業報告は事業の

内容を適切に反映していると認めます。

2016年 6 月 1 日

認定特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 能登谷俊貴

監 査 報 告 書

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2015年度決算について監査の結果、事業報告は事業の

内容を適切に反映していると認めます。

2016年 6 月 1 日

認定特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 森山里菜

事務局

吉野 奈保子（事務局長）

森山 紗也子

神谷 由衣

小関 緑

内藤 麻美子

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-10-9 経堂フコク生命ビル 3 階

TEL: 03-6432-6580 FAX: 03-6432-6590 E-mail: mori@kyouzon.org

<http://www.kyouzon.org/>